



令和5年4月定例仙台市社会教育委員の会議 会議録

- 1 開催日 令和5年4月14日(金)
- 2 開会及び閉会の時刻 午前10時03分開会 午前11時45分閉会
- 3 開催場所 仙台市役所上杉分庁舎教育局第1会議室
- 4 出席委員氏名 阿部哲也委員、安藤直美委員、石垣恵委員、泉山靖人委員、
亀井あかね委員、齋藤愛委員、高城みさ委員、内藤良介委員、
朴賢淑委員、広瀬剛史委員、松本大委員、若生彩委員(12名出席)
- 5 事務局職員 柴田生涯学習部長、武者生涯学習支援センター長、田村生涯学習課長、
加藤生涯学習課主幹、三澤生涯学習課企画係長、
菊池生涯学習課施設係長、古谷生涯学習課生涯学習係長、
生涯学習支援センター事業係 村田主査、
生涯学習課生涯学習係 佐々木主査、間宮主査
- 6 会議の次第
 - (1) 開会
 - (2) 挨拶 松本委員長
 - (3) 報告事項
 - ① 令和5年度教育委員会組織及び社会教育関係予算について
 - (4) 協議事項
 - ① 令和5年度社会教育関係団体に対する補助金について
 - ② 提言の骨子案・構成案について
 - ③ その他
 - (5) その他
 - (6) 閉会
- 7 会議の概要
 - (1) 報告事項
 - 令和5年度教育委員会組織及び社会教育関係予算について、資料3及び資料4に沿って事務局から説明した。
 - (2) 協議事項
 - ① 令和5年度社会教育関係団体に対する補助金について、資料5及び資料6に沿って事務局から説明した。
 - 意見・質問は以下のとおり。
 - ・ 昨年の活動実績を添付して頂きたい。
 - 各団体の取りまとめの都合上、十分な状態の実績報告は添付できないかもしれないが、来年4月の会議では可能な範囲で出させていただく。
 - ・ 予算額はほとんど昨年同様であるが、現場では不足しているのか、やりくりがで

きているのか教えていただきたい。

→内容にもよるが、概算払いで交付し、残った分があれば返していただくことになっており、実際は不足している部分もあるのかもしれないが、予算が足りないという話は特にない。

- ・活動団体の会員数がコロナ禍により減少し、さらに活動費も以前より減額された状態でここ数年維持されている団体もある。消耗品の価格高騰もあり、事業を行うにあたり、文書や資料等の作成、準備にあたる方の交通費等、苦しい中でやりくりをしている。社会教育活動団体は、子ども達の一番身近なところで学ぶ大人であり、様々な形で学校をサポートしている。こうした活動をこれからもつなげていくために、ぜひ協力いただきたい。
- ・資料6（5）の※印（補助対象経費の一部で、本市の予算額を上限とする）が、ここだけ記載があるのは、用途の制限があるとか何か事情があるのか。
→他との違いはない。

②提言の骨子案・構成案について、資料7及び資料8について委員長から説明し、中項目の内容等について、「文化グループ」「子育てグループ」に分かれてグループワークを行った。その後、各グループリーダーから意見交換の内容を発表した。

○各グループの発表内容は以下のとおり。

【文化グループ：亀井委員】

- ・リアル世界（人と人が直接交流する）のネットワークが必要。
- ・社会教育に関わる、或いは享受する人達が、地域活動を行う上で、個々に活動しているだけでは広がりがないので、世代間の交流、活動ごとの横のつながりを広げていくことで、新たな社会活動のコラボレーションが生まれる可能性が考えられる。
- ・活動している場に集まることによって新たな出会いがあり、様々な団体が出会うことによって新しい何かが生まれてくることが考えられる。
- ・コーディネーターやサポート役の人材が必要になるが、その育成の場も必要。
- ・リアル世界のネットワークを支えていくためにデジタルベースのネットワークが必要。
- ・社会教育に関わる方、享受する側どちらも人材が不足しており、その人材を発掘することが急務であるため、データベース化し情報を拡散していくシステムを作っていく。
- ・社会教育がどういうものなのか、また団体の活動アーカイブなどを収集しデータベース化して、そこに潜在的人材の方がアクセスすることで、社会教育の情報を得てもらうだけでなく、活動に参加する中で情報を拡散してもらったり、活動の担い手になるという可能性が生まれてくる。
- ・情報を活用し、興味のある団体にアクセスすることで、リアル世界での活動につながっていくという流れを作っていく。
- ・社会教育を享受する側だけではなく得意なことを社会に還元したい方も積極的にアクセスしてもらい、潜在的人材の発掘につなげる。
- ・リアル世界の活動については、地域差があるが、これを補ってくれるのがデジタルネットワークであると言える。
- ・問題点として予算の制約やシステム維持のための保守管理、データベースを整理していく人材も必要。

- ・継続的にデータベースを維持するための人材として、若い人に活動してもらいたい。社会を知る意味でもインセンティブにもなる。
- ・若い世代の力を借りることは、世代間の交流など、いろいろな意味で今滞っている部分の血流が良くなると考える。

【子育てグループ：齋藤委員】

- ・中項目にかかるところは、二つの柱ができると考えた。
- ・一つは、「場」。調査をしたいろいろな「場」から学ぶことがあった。
- ・様々な「場」をどう捉えるか。情報を発信する「場」、受信する「場」など多角的な視点がある。
- ・もう一つは、子育てをどう捉えるか。子育てという言葉が、あまりにも漠然としている。0歳児と18歳、障害を持っている子、でこぼこのある子などでも全然違う。
- ・子育てが、そもそもどういうところを指しているのかということを、もう一度整理してから人材育成に関し必要なことや提言をまとめていったほうがよいのではないか。

○各グループの発表を受けて述べられた意見・質問は以下のとおり。

【意見】

- ・項目立てはある程度共通していたほうがよい。
- ・最初に調査したことのまとめがあったほうがよい。
- ・施設の話が出ていない。
- ・以前、社会教育施設についてまとめたものがあったと思う。今回、全部は回れなかったが、役割などが書いてあるので、以前のものも活用できるのであれば、活用したほうがよいのではないか。

【質問】

- ・まとめるにあたり、(理解を)深めたい内容について、新たに調査を行うことは可能か。可能な場合、事務局が調整するのか、もしくは各グループ主体で動くことになるのか。
→基本的には調査は昨年度で終了と考えているが、どうしても確認したい場合は対応させていただく。
- ・子育てグループの「場」というキーワードに込められた意味について、もう少し教えてほしい。
→(活動内容、経歴、特徴等が異なる)いろいろな団体の情報を共有する「場」という意味であり、それぞれの現状がどうなっているかを柱にすればどうかと考えたところ。
→活動に関わっている方の集まる場も必要だが、何のグループにも属していない方がふらっと立ち寄って、いろいろな場に繋いだり、直接関わったりできるような場や、データベースとしての場とそれを管理する場なども必要と考える。

○執筆分担に関する今後の進め方について委員長から説明があった。

意見・質問は、以下のとおり。

【意見】

- ・冊子は、協力していただいたところには配布したほうがよい。

- ・提言書は、前例に沿って作成するものなのか。コラムを加えて少し柔らかい提言書にする等、こちらで方向性を決めてもよいものなのか。それによって方向性を修正する方法もあるので、そこを決めてから執筆の話にしたほうがよい。
- ・冊子は、現場の方々にも渡るようにしていただきたい。教育委員会だけでなく、現場にも提案したうえで、現場の声が吸い上げられるような活用をしてもらいたい。

【質問】

- ・前期の執筆時の状況について
 - 前は、中項目や小項目の内容がもう少し明らかになったうえで書いていくという形でゼロからではなく、まとめる形に近かった。
- ・この提言は、教育委員会以外のところでも活用できるように内容を盛り込んでいくのか。別の社会教育委員の会議をした時にコラムみたいに書いてくれと言われたことがあったが、実際に活動している人達が見て、勉強になるような、活動の支援になるような提言を作りたい。大学の授業でも使えるようなものがあるとよい。方針として、教育委員会に向けての提言になるのか伺いたい。
 - 基本的には教育委員会に対しての提言と捉えているが、ホームページに公開し広く広報させていただくので、ご覧になった方が活用できたほうが、より意義のあるものになると思う。
- ・配布先は決まっているのか
 - 市役所に市政情報センターがあり、どなたでも閲覧できるようになっている。また、ホームページにも掲載する。冊子を具体的にどこに配布するかについては検討したい。
- ・議論が未了の場合は、各グループごとに行ってもよいのか。
 - 場所の設定などが必要であれば、事務局でも対応させていただく。

③その他
なし

8 その他
なし

「仙台市社会教育委員の会議実施要領」第4条及び第5条に基づき会議録を作成し、同要領第6条に基づき委員長及び会議録署名人が署名する。

令和 6 年 3 月 29 日

委員長

大 本 公 太

会議録署名人

高城 みさ